

2015年度下期セミナー

わたしたちにとって文化遺産とは

アメニティ・アカデミーの2015年度のセミナーは昨年度につづき「わたしたちにとって文化遺産とは」をテーマにかかげ、上期は講義で学んできましたが、下期は見学会をおこなっています。綿業会館（大阪・12月）に続いて、針江地区（滋賀・2月13日）、聴竹居（京都・3月12日）を訪問します。針江生水の郷は大昔からつづく湧水を生活にとりこんだ暮らしの地域。聴竹居は藤井厚二設計の実験住宅。いずれもわたしたちにとって大切な文化遺産です。これらをじっくり見てまわしましょう。

3月 聴竹居

聴竹居は1928年（昭和3年）に建築家藤井厚二によって建てられました。「日本の気候・風土にあった日本人の身体に適した住宅」を追求した藤井が大山崎の地に建てた5番目の実験住宅です。自然との調和をはかり、住みやすさの工夫をこらし、近代住宅建築の名作とされています。

月日 2016年3月12日（土）

訪問先 聴竹居（京都府乙訓郡大山崎町）

集合 JR東海道線山崎駅改札口 12時45分

（大山崎山荘美術館見学〈オプション〉の方も同時刻）

参加費 会員1500円 一般2000円（前期セミナー前納者1000円）

定員 40名

聴竹居の見学は1時と2時の2班です。オプションの美術館見学希望者は2時からの班におはiriいただきます。ただ希望者の人数によっては変更もありますのでご了承ください。なお定員が限られていますので、会員に同伴の一般の方は1名に限らせていただきます。

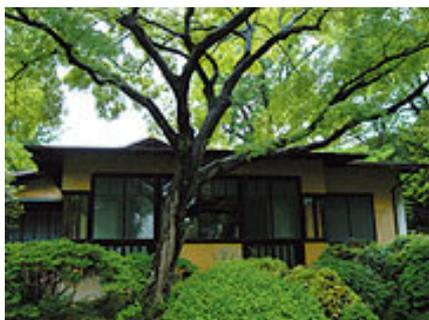
オプション 大山崎山荘美術館見学（入館料900円）

昼食 三笑亭（天井定食 1760円）

昼食ご希望の方は 11時30分にJR山崎駅に集合をお願いします

申込締切 3月6日（ただし定員に達ししだい締め切ります）

お申込みの際にはオプションの参加有無もお知らせください



★藤井厚二（1888年～1938年）

東京帝国大学建築学科卒。大阪朝日新聞社、村山龍平邸和館等の設計をてがける。環境工学という側面から「日本と日本人にあった住宅」を追求した。その実験として大山崎に自邸を建てて住んでは知人にゆずるということを繰り返した。聴竹居はその5番目の住宅で、49歳で亡くなるまで約10年住み続けた。

問合せ・申し込み 認定特定非営利活動法人アメニティ2000協会
（事務局 西宮市3-20 清水）

TEL・FAX 0798-65-4303 携帯 080-3138-4164